

琉球大学学術リポジトリ

平成22年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業 報告

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学生涯学習教育研究センター 公開日: 2011-08-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21727

平成22年度琉球大学生涯学習教育研究センター事業報告

平成22年度における生涯学習教育研究センターの事業は以下の通りである。

1. 一般公開講座

平成22年度は、専門コース10講座、一般コース21講座、あわせて31講座を開設し、1,148名の受講者があった。

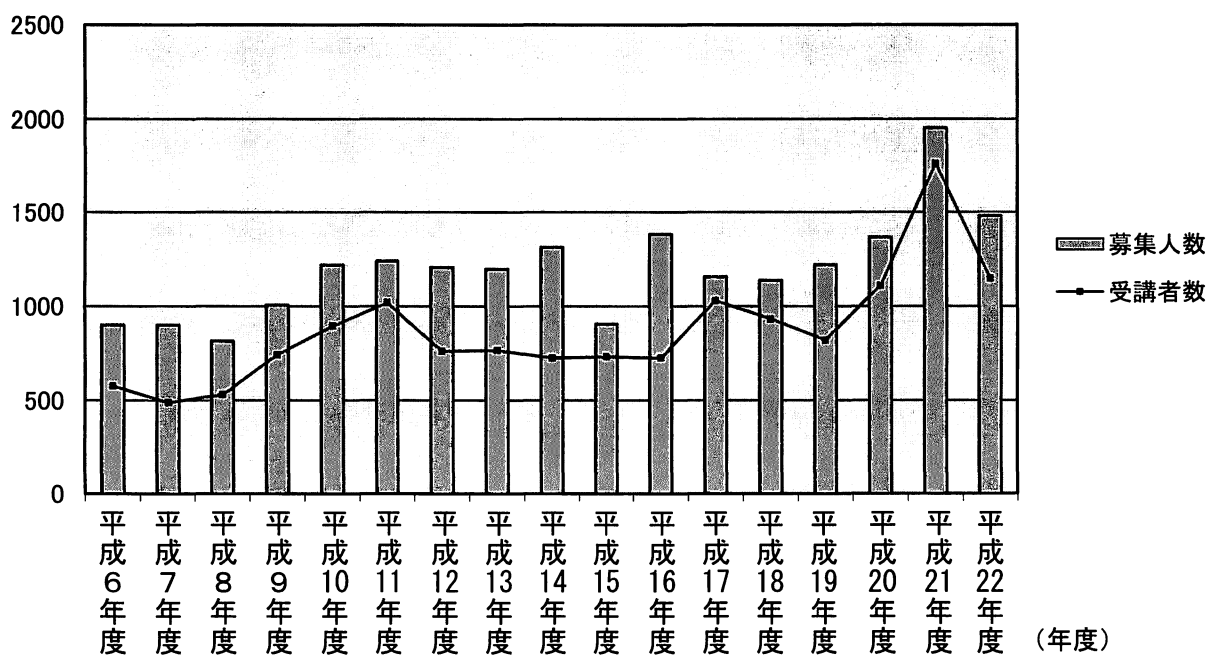
21年度実績と比較すると、専門コースが6講座減、一般コース2講座減と講座数では減少したが、初めて30講座を超えた平成20年度と同数となった。総受講者数でも614名の減となったが、平成20年度との比較ではほぼ同数の受講者数となっており、安定した増加傾向にある。充足率の面では、専門コースが93.5%、一般コースが75.1%となった。

一般公開講座 年度別状況

年度別	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
講座数	24	24	24	18	19	26	28	26	28	16	25	20	22	24	31	40	39
延べ時間	389	413	314	350	387	315	373	463	405	292	431	398	531	547	582	691	970
募集人数	900	900	815	1,005	1,219	1,239	1,205	1,196	1,313	905	1,380	1,156	1,136	1,220	1,365	1,952	1,481
受講者数	577	488	530	743	894	1,018	762	767	726	733	727	1,030	932	821	1,109	1,762	1,148

募集人数と受講者数の対比

(人数)



平成22年度 琉球大学一般公開講座実施状況

講座区分	学 部	講 座 名	主任担当教員	実 施 月 日
専 門 コ ー ス	教 育 学 部	先生のためのやり直し理科～小学校理科教科書実験再考	吉田安規良	6月5日(土) ～19日(土)
	医 学 部	新任保健師のためのスキルアップ講座	當山 裕子 他	5月22日(土) ～2月5日(土)
	医 学 部	保健医療福祉関係者に必要な自宅における尿失禁対策・感染防止対策・褥創処置・皮膚・排泄ケア	大湾 知子 他	8月7日(土)
	工 学 部	電気主任技術者短期養成講座	千住 智信	5月1日(土) ～22日(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション・ボランティア養成講座	古川 卓	4月10日(土)
	保健管理センター	『自立活動』に生かす動作法－基本的な考えと方法－	古川 卓	4月23日(金) ～24日(土)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅰ－	古川 卓	5月10日(月) ～7月12日(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の実践Ⅱ－	古川 卓	10月4日(月) ～12月20日(月)
	保健管理センター	心理リハビリテーション－障がい者のための生涯発達援助法の集中実践講座－	古川 卓	7月28日(水) ～7月30日(金)
	教 育 学 部	栄養教諭と教員等のための食育推進の実践講座	森山 克子	5月29日(土) ～10月10日(日)
一 般 コ ー ス	法 文 学 部	観る沖縄～映像製作の現場から～	石川 隆士	5月22日(土) ～9月18日(土)
	法 文 学 部	暮らしを向上させるインターネット活用術	李 好根	6月19日(土)、 20日(日)
	法 文 学 部	世界に発信！ホームページ作成術	李 好根	7月4日(日) ～7月11日(日)
	教 育 学 部	親父のための健康サッカー講座	真栄城 勉	4月11日(日) ～3月27日(日)
	教 育 学 部	50代シニアのための健康サッカー講座	真栄城 勉	4月9日(日) ～11月1日(日)
	教 育 学 部	琉大生がサッカーと勉強を教えます！	笹澤 吉明	5月23日(日) ～3月27日(日)
	教 育 学 部	おもちゃ作りを通して学ぶ地球温暖化防止親子講座	清水 洋一	8月15日(日)、 22日(日)
	教 育 学 部	発声法と歌唱法（愛唱歌を中心に）	泉 恵得	5月1日(土) ～6月12日(土)
	理 学 部	体感！最先端物理学の世界	前野 昌弘 他	8月29日(日)
	医 学 部	排泄のことで悩んでいませんか？～みんなで尿漏れ対策～	大湾 知子 他	9月4日(土)
	医 学 部	母と子の月経教室	儀間 継子 他	8月28日(土)
	医 学 部	かみ合わせ、悩んでいませんか？～かみ合わせ、アゴのゆがみ治療法～	天願 俊泉 他	7月31日(土)
	医 学 部	剣道（たいどう）体験入門：理論と実践（玄制流空手宗家が作った哲学と護身武術）	田中 勇悦	5月8日(土) ～6月5日(土)
	医 学 部	がん患者・家族を癒す緩和ケアの実際	砂川 洋子 他	8月29日(日)
	工 学 部	夏休み工作教室	伊波 善清 他	7月28日(水) ～8月11日(水)
	工 学 部	心がつくる人生（倫理道徳実行の大切さを学び、豊かな人生を実現しよう）	和田 知久	6月26日(土)
	工 学 部	ロボットをつくろう	比嘉 広樹	8月15日(日)
	生涯学習教育 研究センター	『琉球大学の知』シリーズ 「人が牛から学ぶもの」	玉城 政信	2月5日(土)
	生涯学習教育 研究センター	琉球大学名誉教授シリーズ “琉球大学の至宝”	比嘉 辰雄 他	3月5日(土)、 6日(日)
	生涯学習教育 研究センター	持続可能な社会の構築に向けて～環境対策の現在と私たちの未来～	森下 研 他	9月4日(土) ～9月12日(日)
生涯学習教育 研究センター	知のふるさと納税（石垣）	山口喜七郎 他	2月5日(土)、 16日(水)、25日(金)	

2. 公開授業

琉球大学の学生を対象とする正規の授業科目を県民にも広く公開するのが公開授業である。平成22年度は、科目数が90科目（前年度比－7科目）、受講者数はのべ264名（前年度比＋109名）であった。

科目数の減に対して100名以上の受講者増があったことには、昨年度に導入した「定額料金制」が徐々に浸透しつつあることがうかがえる。「定額料金制」とは、以下のようなものである。

【半期定額料金】

★半期間6,600円で複数科目の授業が受講可能。

(旧料金)

1科目（半期）4,600円×1科目＝4,600円
 1科目（半期）4,600円×2科目＝9,200円
 1科目（半期）4,600円×3科目＝13,800円
 1科目（半期）4,600円×4科目＝18,400円

▶ (新料金)

何科目を受講しても
6,600円

【通年定額料金】

★通年間9,100円で複数科目の授業が受講可能。

(旧料金)

1科目（半期）6,600円×2科目＝13,200円
 1科目（半期）6,600円×3科目＝19,800円
 1科目（半期）6,600円×4科目＝26,400円

▶ (新料金)

何科目を受講しても
9,100円

★通年定額料金は、通年の授業を複数科目だけではなく、半期（前・後）授業を複数科目受講することも、両方を組み合わせることも可能。

本学の提供する公開授業は旧料金の場合でも全国平均のおよそ半額という設定であったが、「定額料金制」の導入により、県民の方々にとってはさらに複数科目の受講が容易になった。今年度は69名の方が複数科目を受講しており、最大で9科目受講された方もいる。今後は、各学部の協力を得て、さらなる科目数の増を図っていくことにしたい。

平成22年度公開授業一覧（前期：・後期：）

No.	学部	学科等	授業科目	学期	担当教員
1	法文学部	総合社会システム学科	グローバルポリティクス	後	我部 政明
2			地方財政論1組	前	獺口 浩一
3			地方財政論2組	前(夜)	獺口 浩一
4		人間科学科	教育社会学入門	前	岩橋 法雄
5			カウンセリング	前	田中 寛二
6			非行と犯罪の心理学	後	田中 寛二
7		国際言語文化学科	琉球史概論Ⅰ	前	高良 倉吉
8			琉球史概論Ⅱ	後	大浜 郁子
9			琉球民俗学概論Ⅰ	前	赤嶺 政信
10			琉球民俗学概論Ⅱ	後	赤嶺 政信
11			琉球語学概論Ⅰ	前	狩俣 繁久
12			琉球語学概論Ⅱ	後	狩俣 繁久

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学 期	担 当 教 員
13	法 文 学 部	共通教育科目	日本の歴史と文化	前	武井 弘一
14			戦争と平和の諸問題	前	我部 政明
15			琉球語入門Ⅰ (POY)	前	狩俣 繁久
16			琉球語入門Ⅱ (POY)	後	狩俣 繁久
17			現代社会のしくみ	前	野入 直美
18			現代経済の諸問題	後	瀬口 浩一
19			ことばの構造と意味 (POY)	後	吉本 靖
20	観 光 産 業 部 科 学 部	観光科学科	エコツーリズム論	前	大島 順子
21			Tourism Development of Hawaii	前	伊波美智子
22		産業経営学科	持続可能観光論／環境マーケティング	前	伊波美智子
23			人的資源管理論基礎	前	井川 浩輔
24			人的資源管理論応用	後	井川 浩輔
25			経営学概論	通年	井川 浩輔
26			経営学概論	通年(夜)	井川 浩輔
27			観光情報論	前(夜)	宮国 薫子
28			まちづくり・地域おこし論	後(夜)	宮国 薫子
29			マネジメント実践論	前(夜)	牛窪 潔
30			マネジメント応用論	後(夜)	牛窪 潔
31			中小企業経営論	前	牛窪 潔
32			中小企業発展論	後	牛窪 潔
33			観光経営論	前	桑原 浩
34			観光マーケティング論	前(夜)	桑原 浩
35			簿記原理Ⅰ	前	桑原 和典
36			ファイナンス実践論	前	桑原 和典
37			財務管理論	後	桑原 和典
38			経営統計学基礎	前	志村 健一
39			応用経営統計学	後	志村 健一
40			情報教育演習	前(夜)	志村 健一
41			品質経営論	後(夜)	志村 健一
42			経営管理技法論	前	志村 健一
43			簿記原理Ⅰ	前	多賀 寿史
44			組織変革論 e-learning 併用による授業	前	大角 玉樹
45			物流論	前(夜)	知念 肇
46			日本流通論	前(夜)	知念 肇
47			経営戦略論	前(夜)	與那原 建
48			競争戦略論	後(夜)	與那原 建
49			コストマネジメント論	後	福井 眞司
50			ベンチャー会計論	前	福井 眞司
51			経営管理特殊講義Ⅰ	前	石川 邦夫
52			経営管理特殊講義Ⅰ	後	石川 邦夫
53			簿記原理Ⅰ	通年(夜)	上江洲由正
54	共通教育科目	現代会計のしくみ	後	多賀 寿史	
55	教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	南北問題と開発教育入門	前	西岡 尚也
56			人文地理学概論	前	西岡 尚也
57			地誌学概論B	後	西岡 尚也

No.	学 部	学 科 等	授 業 科 目	学 期	担 当 教 員
58	教 育 学 部	学 校 教 育 教 員 養 成 課 程	地理学外書購読Ⅰ	前	西岡 尚也
59			地理学外書購読Ⅱ	後	西岡 尚也
60			理科教育法A〔1組〕	前	吉田安規良
61			授業技術	前	吉田安規良
62			職業指導	前	福田 英昭
63			木材加工基礎	前	福田 英昭
64			木材材料学	前	福田 英昭
65			音楽史概論	前	泉 恵得
66			教師のための発声法	前	泉 恵得
67			理 学 部	物質地球科学科	電磁気学Ⅰ
68	電磁気学Ⅱ	後			前野 昌弘
69	相対論	後			前野 昌弘
70	波動論	前			前野 昌弘
71	物理数学Ⅰ	前			稲岡 毅
72	海洋自然科学科	熱帯生物生産学概論		後	竹村 明洋
73	共通教育科目	物理学Ⅰ		前	稲岡 毅
74		物理学入門Ⅰ		前	安田 千寿
75		物理学入門Ⅱ		後	安田 千寿
76		海洋の科学		前	松本 剛
77		海洋の科学	前(夜)	松本 剛	
78	医 学 部	医 学 科	歯・顎・口腔系	前	砂川 元 他
79			薬理学	9/1～	筒井 正人
80		保 健 学 科	精神保健看護論	前	與古田孝夫
81			がん看護論	後	砂川 洋子
82	工 学 部	環境建設工学科	環境エネルギー計画	前	堤 純一郎
83		情報工学科	自然言語処理	後	高良 富夫
84		共通教育科目	環境影響評価概論	後	堤 純一郎
85	農 学 部	共通教育科目	森の文化史 (POY)	後	仲間 勇栄
86	大 学 院	人 文 社 会 科 学 研 究 科	外交政策論演習	後	我部 政明
87			国際政治学	前	我部 政明
88		医学研究科	臨床腫瘍学特論	通年	村山 貞之
89	生涯学習教育 研究センター		教育の社会史	後	背戸 博史
90			教育政策史	後	後藤 武俊

3. 高大連携事業

中等教育と高等教育の円滑な接続に向けて、高校生を対象とする多様な講座を提供するのが高大連携事業である。本事業は、大学教育センターと当センターとの共催により、公開講座（会場は本学）、出前講座（会場は高校）、公開授業（正規の授業科目を高校生に公開）の3タイプで提供される。22年度は公開授業19科目、公開講座1科目、出前講座56科目を提供し、実際に開催されたものが公開講座5科目（前年度と同数）、出前講座15科目（前年度比+8科目増）、のべ受講者数661名であった。

平成22年度高大連携公開授業科目

○ 公開授業科目

（琉球大学における通常の授業科目を全部又は一部を公開し、本学学生と一緒に聴講させる）

No.	学部	学科等	講義名	担当教員名
1	理学	海洋自然科学科	熱帯生物生産学概論	竹村 明洋 他
2	工学	情報工学科	先端情報工学概論	高良 富夫 他
3	工学	環境建設工学科	環境影響評価概論	堤 純一郎
4	農学	亜熱帯農林環境科学科	食料生産と環境	鬼頭 誠
5	工学	情報工学科	自然言語処理	高良 富夫

○ 出前講座

（高校生のみを対象とした公開講座を開設し、本学教員が出向して受講を希望する高校生へ受講させる講座）

No.	学部	学科等	講義名	担当教員名
1	法文	人間科学科	台湾をテーマにした観光づくり －八重山－台湾の国際社会学	野入直美
2	法文	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川隆士
3	法文	人間科学科	空間・時間・文化の魅力 －地理学・歴史学・人類学入門講座	武井弘一・池田栄史・ 後藤雅彦
4	法文	人間科学科	空間・時間・文化の魅力 －地理学・歴史学・人類学入門講座	武井弘一・池田栄史・ 稲村務・鍛塚賢太郎
5	法文	人間科学科	絵画史料で学ぶ日本史	武井弘一
6	理学	海洋自然科学科	ミクロの世界	堀内敬三
7	工学	情報工学科	新世代放送受信半導体技術－デジタルを 使えば車でハイビジョンが見れる－	和田知久
8	農学	亜熱帯農林環境科学科	熱帯・亜熱帯地域における持続的食料生産	鬼頭 誠
9	農学	亜熱帯生物資源科学科	バイオサイエンスと私達	平良東紀
10	理学	海洋自然科学科	サンゴ礁と沖縄の生態系	土屋 誠
11	法文	人間科学科	絵画史料で学ぶ日本史	武井弘一
12	法文	国際言語文化学科	ポップミュージックで深まる英語の世界	石川隆士
13	理学	物質地球科学科	ブラックホールの風景 －CGで見る相対性理論－	前野昌弘
14		熱帯生物圏研究センター	私たちの体を守る免疫系の働き	松崎吾朗
15		総合情報処理センター	インターネット社会の安全対策	谷口祐治

4. センター独自企画講座

① 強化テーマ

平成22年度の強化テーマは、本学観光産業科学部教授の伊波美智子先生にコーディネーターを依頼し、キーワードを「環境」とした。毎年のように「異常気象」が指摘され、海水温の上昇によるサンゴの白化現象や温暖化の影響とみられる魚介類の不漁、農作物の不作など、具体的な影響が表れてきている。また、新興国の経済発展に伴う環境破壊は国際的な問題ともなっており、あらためて人類と地球との関係や、持続可能な社会のあり方などについて基礎から学ぶ必要があると考えたからである。

開催講座は2本立てとした。ひとつは「持続可能な社会の構築に向けて～環境対策の現在と私たちの未来」というテーマの下、環境問題に関心のある一般市民を対象とする講座として実施した。プログラムは以下の通りである。

9月4日(土) 13:00～17:00	講師：森下 研 (環境人材育成コンソーシアム準備会 (EcoLeaD) 事務局長) 「環境学概論 (1)」 内容：環境問題とは何か、地球システムと生態系、地球・人類の歴史と環境問題、資源と地球の容量、環境対策史
9月5日(日) 13:00～17:00	講師：森下 研 「環境学概論 (2)」 内容：持続可能な社会に向けた環境対策 (政府・自治体の取組、企業の取組、持続可能な社会構築のためのパートナーシップ) まとめ (持続可能な社会の構築に向けて)
9月11日(土) 14:00～17:00	講師：渡久山 章 (放送大学客員教授・琉球大学名誉教授) 「沖縄の環境問題を考える」 内容：総論、赤土問題、やんばるの森の保全について
9月12日(日) 14:00～17:00	講師：藤井 晴彦 (那覇市立森の家みんな・沖縄自然環境ファンクラブ代表) 「身近な自然についてもっと知ろう」 内容：那覇市で唯一まとまった森の自然が残る末吉公園で自然体験学習

前半2回は「環境学概論」とし、環境問題とは何かという問いから始め、その実態を具体的なデータで確認するとともに、政府や自治体、企業や市民ひとりひとりが如何なる対策を講じることが出来るのかについて学習した。

後半2回は、そうした環境問題をより身近な事象として捉えるため、沖縄における実態を確認するとともに、我々の身近にある、守るべき環境に触れる自然体験プログラムを盛り込んだ。

当初は本学学生の受講も見込んでいたが、夏季休業と重なったため叶わなかった。しかし受講した市民にはそもそもの関心に加え、多くの新しい知見を持ち帰って頂いた。環境に対する認識はもはや21世紀の市民教養といえるものであり、その意味では、単年度の強化テーマとせず、定期的に関心すべき講座であるとも考えている。

2本立てのもうひとつは、エコアクション21の取得に向けた専門性の高い企画とし、「琉球大学イニシャティブプログラム」(モデル事業)を実施した。エコアクション21とは環境省が策定する中小企業、学校、公共機関向けの環境マネジメントシステムであり、国際規格の「ISO14001」をベース

とする認証登録制度である。本学は2009年5月15日に全学で認証を取得しているが、さらに一歩進み、社会への貢献を使命とする大学がその普及に向けた取組として実施するのが本プログラムである。全国初の試みであった。

構成はやや複雑である。本プログラムは、地域の企業に対し認証取得に不可欠な知見を提供することにあるが、その際、本学学生のサポートを用意する点に最大の特徴がある。認証取得には「環境レポート」の作成が必須であるが、その作成を学生がともに行うのである。一方、学生にとってはこの取組がそのままインターンシップとなる。従ってこのプログラムは、本学の学生に向けては正規授業科目として展開されることになる。

初年度ということもあり、本プログラムは4企業と8名の学生が参加し共同して「環境レポート」の作成をした。

事業自体には露呈した課題も少なくなく、情報開示に関する企業間の温度差や学生によるサポートの方法のばらつきなど、今後検討していく必要な事項が数多く残されている。

しかしながら、「環境」をキーワードとした平成22年度の強化テーマとして考えた場合、一般市民の基礎教養を高める講座のみならず、企業を対象とした、より実践的で高度に特化されたプログラムを展開し得たことの意義は大きい。ひとつずつ、課題を克服してゆきたい。

② 「やわらかい南の学と思想」シリーズ

本シリーズは、各分野の第一線で活躍する本学の教員が、「沖縄」について様々な視点から分かりやすく論じた書物、琉球大学編『やわらかい南の学と思想』沖縄タイムス社（全3巻）の発刊を記念し、執筆者が直接県民に対し学習の機会を提供するという企画である。第2回目となる本年度は、農学部教授の玉城政信先生（畜産学）による「人が牛から学ぶもの～牛の成長と人の成長～」を開催した。

食材としての関わりはあるものの、いざ問われると牛についての知識を持っている人は少ないのではないかと。講義は和牛と国産牛の違いなどといった基礎知識から、牛の成長過程やそこから読み取るべき人に対するメッセージなど、意外に知らない牛の生態についてを学んだ後、農学部フィールド科学センターの牛舎で実際に牛に触れてみようという講座であった。

対象は市民一般としたが、親子での参加も予定していた。インフルエンザの蔓延により子どもの参加がなく成人のみの講座となってしまったことが何より残念である。あたかも牛の言葉がわかっているのではないかと、思わずそう確信してしまうような生態に関する説明が、実際の牛を前にひとつひとつ証明されていくと、そんな驚きと実感に充ちた講座であった。多くの人には馴染みの薄い畜産学の奥深さを体感する講座であり、再度、子どもたちにも受講の機会を提供していきたい。



自然体験プログラム



環境学概論



農学部フィールド科学センター牛舎

③ 名誉教授シリーズ「琉球大学の至宝」

神は細部に宿る…、それは学問の世界でも同じである。社会や自然界で起きていること、見えるもの見えないもの、そうした事柄のひとつひとつを細部にわたり究明するのが学問の世界である。

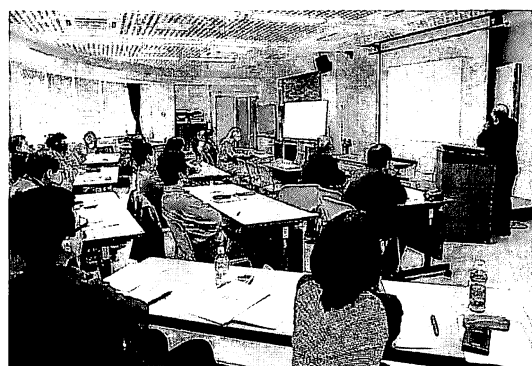
しかし、そうした世界を開いてみせるには、大局的なプレゼンテーションが必要になってくる。その極めて難しい作業を「琉球大学の至宝」に頼り実現しようとするのが本講座、名誉教授シリーズである。第3回目となる今年度は、琉球大学が誇る以下の講師陣によって開催された。

日時	時間	テーマ	担当講師
3/5 (土)	13:30~ 15:00	海洋天然物化学の世界 —竜宮城と化学兵器とがん治療薬—	比嘉辰雄 (理学部名誉教授)
	15:15~ 16:45	流体工学の世界 —身近なものの「流れ」を科学する—	山里栄昭 (工学部名誉教授)
3/6 (日)	13:30~ 15:00	土壌学の世界 —人工土壌に秘められた力—	渡嘉敷義浩 (農学部名誉教授)
	15:15~ 16:45	作物生産学の世界 —品種改良で人口急増に挑む—	村山盛一 (農学部名誉教授)

比嘉先生による講座では、サンゴから抽出された物質が化学兵器として利用され、その後それががん治療薬として我々の生活を支えていることなどを通して、海洋天然物科学の奥深い世界を開いて頂いた。山里先生の講座では、風や水の流れを利用したあり得ないような出来事が数多く紹介され、流体工学の世界が我々の身近な生活に潜んでいることが示された。渡嘉敷先生による講座では、「土」と「土壌」の違いの説明に始まり、沖縄の土壌の特質や、リサイクル材による人工土壌に秘められた可能性が展望された。村山先生の講座では、世界で進む品種改良の現状のみならず、開発のプロセス、そして、そうした研究の進展がもたらす人口急増の危機に対する克服の可能性が示された。

受講者はみな「琉球大学の至宝」によって開かれる学問の世界に魅了されていたが、今年度のプログラムが自然科学に特化したものであったことが理由であろうか、圧倒的に男性が多く、且つ、一般的な講座の受講者層に比して現役世代が多数を占めた。

毎回思うことであるが、学問の世界を広くわかりやすく開示していくことは並のキャリアではなかなか出来るものではない。これからも、「琉球大学の至宝」の力をお借りし、シリーズを継続させていきたい。



講義風景（流体工学の世界）

④ 学内教職員有志による勉強会の開催

大学職員の資質向上に向けた取組（いわゆる staff development）は、当該大学がその個性を十全に発揮しつつ社会的使命を全うするために不可欠な取組であるといえよう。法人化後においてはなおさらその重要性が増している。しかしながらその多くは、単発の講習会や短中期の研修といった方法に限られてくるのが現状でもある。

一昨年度末、「優秀且つ志の高い若手事務職員が、仲間同士で勉強をしたいと言っている。しかし学習や運営の方法がわからずなかなか実現できない…」という相談を受けた。同じく、優秀且つ志の高い当センター担当の事務職員からである。

考えてみると、社会人の実践的なスキルアップを支援する取組は、本センターの重要な任務のひとつ

つである。それは学内の人材に対しても同じこと…、そう認識し着手し始めたのがこの勉強会である。

この企画の性格には、多様な側面がある。勉強会の運営自体は当センターの公式事業として位置付けた。しかしながら、会の持ち方やメンバーシップなどについては、「有志」による協議に委ねた。適切な形容は難しいが、当センターとしては「自主的な勉強会」の支援をしたい、そう判断してのことである。

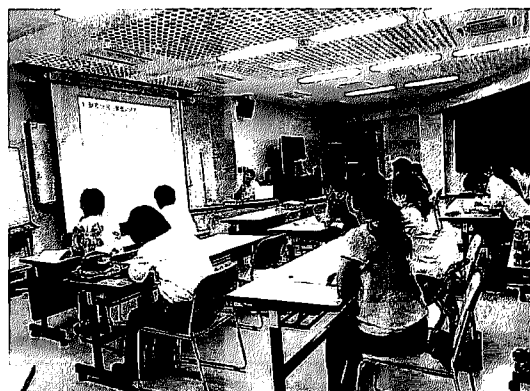
そうして始まった勉強会は、後日、「三水会」という名称を得た。毎月第三水曜日の夕方から開催される勉強会という意である。公式ルートに乗せての参加者募集は行っていないが、「常にオープンであること」をルールとし、発起時の有志が各自の先輩や同僚、後輩に声をかける…というスタイルを取った。従って、毎回の参加者は常に流動的である。

勉強会自体に定まったプログラムは設けていない。学習テーマを決めるためのワークショップ、参加者が頼み込んだ上司や先輩による話題提供、参加者自身がレジュメを切ったの発表など、多様な進め方をしている。

そのいずれの方法にも貫かれているのが、「琉球大学をもっと良い大学にしたい」という想いである。その想いに従い、大学の歴史的変遷や学生サービスの在り方、財務状況の理解や法令解釈の具体的なスキル、ハラスメントへの理解や社会貢献・地域連携の現状確認、大学生協の運営状況や共栄に向けたさらなる可能性の展望など、実に多様なテーマを学習の素材としてきた。

初年度の成果は、教員と事務職員がともに勉強をする場を設けられたこと、且つ、全12回にわたり開催し続けたことである。いまのところそれ以上の具体的な成果を測定するつもりはない。まずはこうした機会が定期的に必ず開かれていることが何よりではないかと考えているからである。

次年度も継続予定であるが、検討すべき課題もなくはない。たとえば、今後はどういった範囲で呼びかけを行うのか、参加者が流動することを前提に、メンバーシップの明確化や学習方法の精緻化をはかる必要がある。学内はもとより、学外の人々にも参加して頂けるような仕組みをつくることで、より意味のある会にもなろう。そうした課題ひとつひとつの検討も学習の素材とし、来年度以降も継続して開催してゆきたい。



本学財務部長による話題提供

5. 琉球大学21世紀フォーラム

琉球大学では、「学生と教職員の交流の場」、そして、「学内と社会を結ぶ交流の場」を目指して、平成19年度から「琉球大学21世紀フォーラム」を実施している。今年度は、11回のフォーラムを開催し、本学の学長を始めとして、他大学の研究者や自治体の首長、海外の政府関係者、本学の学生など多様な方々による講演を開催することができた。

	開催日時	講師	所属	演題	参加者数		
					学内	学外	合計
第45回	H22.4.30(金)	岩政 輝男	琉球大学長	学長と語ろう！ ～教育、研究、社会貢献、これからの琉球大学の在り方～	119名	10名	129名
	17:30～19:00						
第46回	H22.5.14(金)	中村 衛	琉球大学理学部准教授	沖縄で巨大地震は起こるか？ ～最新の観測による相次ぐ発見とその意義～	52名	18名	70名
	17:30～18:45						
第47回	H22.6.4(金)	興相 寛	昭和女子大学教授	学生のシティズンシップと大学教育におけるサービスラーニングの可能性	37名	6名	43名
	17:30～19:00						
第48回	H22.6.25(金)	西平 守孝	(財)海洋博覧会記念公園管理財団 参与	多種共存：『棲み込み連鎖』とその展開	55名	85名	140名
	16:30～18:00						

	開催日時	講師	所属	演題	参加者数		
					学内	学外	合計
第49回	H22.7.10(土) 18:00~19:00	早川 忠光/トリオ四季の風	NPO 法人地域サポート若狭代表理事	留学生とともに、みんなで歌おう、日本の歌、沖縄の歌~日本・沖縄の童謡・唱歌、思い出の歌・叙情歌~	-	-	100名
第50回	H22.10.15(金) 16:30~18:30	友利 克美	沖縄県教育庁生涯学習推進センター 生涯学習推進監	大学の地域貢献と県民の学習機会のネットワーク化 ~改めて、琉大はどのような貢献ができるか~	34名	19名	53名
		金城 昇	琉球大学教育学部教授				
	幸喜 千晃	浦添市生涯学習振興課てだこ市民大学事務局員					
		玉城 優里	琉球大学学術国際部地域連携推進課 係員				
第51回	H22.12.3(金)【延期】 17:30~19:00	玉城 史朗	琉球大学工学部教授	フィールドから自然エネルギーを学ぶ-ICTを活用した新エネルギーと近未来型農業への挑戦-	42名	13名	55名
第52回	H22.11.19(金) 17:30~19:30	浜田 京介	中城村長	琉球大学の地域貢献と近隣自治体等との連携・協力のあり方 ~お互いは、どのような連携・協力のネットワークを構築できるか~	38名	43名	81名
		古謝 景春	南城市長				
		平 啓介	琉球大学研究・国際交流・社会貢献担当副学長				
	中村 透	琉球大学教育学部長					
		長嶺 勝	琉球大学熱帯生物圏研究センター准教授				
第53回	H22.12.17(金) 17:30~19:00	小池 勳夫	琉球大学副学長・監事	海の中で何が起きているか? -栄養塩と生き物との関係-	38名	6名	44名
第54回	H23.1.21(金) 17:30~19:30	野中 光 他6名	琉球大学および沖縄国際大学学生	私たちはこんな学びを求めているんだ!~枠に囚われない学びのスタイルとは!??~	62名	12名	74名
第55回	H23.1.28(金) 17:30~19:00	Mr.B.N.Yugandhar	(前インド国家計画委員会メンバー、前インド首相府、首相秘書官)	ソフトパワー&ソーシャルキャピタル海外の事例より学ぶ	23名	7名	30名
		Dr.P.R.Petrucci	マシー大学教授				
第56回	H23.2.4(金) 17:30~19:00	亀山 郁夫	東京外国語大学 学長	無関心な〈神々〉の陰謀 -ドストエフスキーと現代	58名	13名	71名

6. 離島支援プロジェクト「知のふるさと納税」

本プロジェクトは、離島を数多く抱える地域の大学として、また、離島出身の教員や学生が多数在籍する大学として、大学資源の開放および学習機会の提供等を通じて離島地域の発展に貢献することを目指すものである。今年度は、学内の特別経費である中期計画達成プロジェクト経費を受け、大学教育センターとも連携しながら、宮古、八重山の両地区において実施した。昨年度は、八重山出身の本学教員(名誉教授)による講演会がおもな内容であったが、今年度は、教員による講演会(八重山地区)だけでなく、新たに離島出身の学生と現地の小中学生・高校生との交流会(宮古地区)も行い、幅広い内容で実施することができた。プロジェクトの成果に対する分析は、本紀要の山田美都雄氏による報告に詳しいので、そちらを参照されたい。概要は以下の通りである。

(1) 八重山地区

八重山地区では、昨年度同様、離島地域における進学意識の向上に寄与すること、および有意義な学習機会の提供を行うことを目的として、八重山出身の教員による講演を中学校および公民館で実施した。今年度は、プロジェクトの実施に先立って、「八重山関係教職員の会」のご協力を頂き、当会所属の教職員の方々に講演可能なテーマについてアンケートを実施させて頂いた。アンケートの結果、および講演テーマに関する現地からの要望などを考慮しながら、今年度は4名の先生方のご協力を頂き、のべ3日間、7回の講演を実施することができた。

昨年度に比べて質量ともに充実させることができたが、他方で、1日2回の講演をお願いした先生方には大きな負担となった。特に山口喜七郎先生の講演では、多くの実験器具を用いるものであったにもかかわらず、2つの講演の間隔が短かったため、準備に十分な時間を取って頂くことができなかった。講演内容に応じたスケジュールの設定が今後の課題として残された。

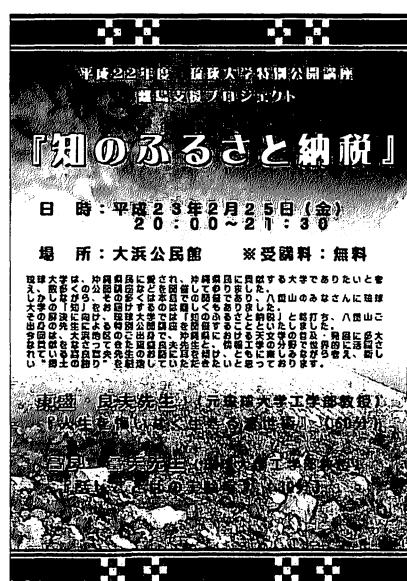
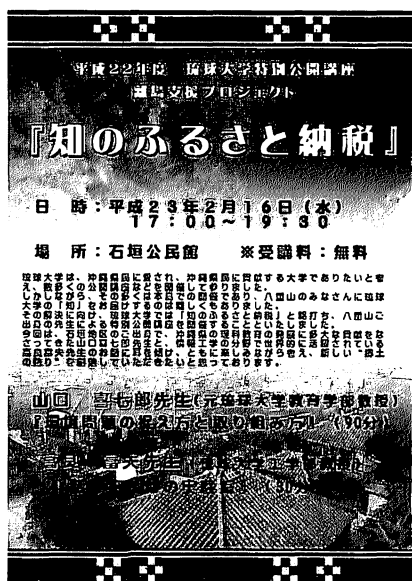
また、与那国島の講演では、講演テーマについて現地から具体的な要望があったため、出身者では

なくテーマにふさわしい教員に講演をお願いすることにした。今後もテーマ重視の要望を受けた場合には、今回のように出身者にこだわることなく講師を選定していくことにしたい。

最後に、現地での学校および公民館との調整に当たっては、八重山教育事務所の社会教育主事である市原教孝様に多大なご尽力を頂いた。記して深く感謝申し上げます。

【平成22年度 離島講座「知のふるさと納税」八重山編】

2月5日 16:00~17:00	講師：西本 裕輝（大学教育センター准教授） テーマ：「家庭環境・親子関係と学力」 対象：教員およびPTA関係者（68名） 場所：久部良小学校 備考：与那国町学力向上対策推進実践発表会の一部として実施
2月16日 14:00~15:15	講師：山口喜七郎（元琉球大学教育学部教授） テーマ：「学びのすすめ～サイエンスを学ぶ意義と醍醐味～」 対象：石垣中学校2年生（218名） 場所：石垣中学校
2月16日 17:00~19:30	講師①：高良 富夫（琉球大学工学部教授） テーマ：「話しことばの実験室」 講師②：山口喜七郎（元琉球大学教育学部教授） テーマ：「環境問題の捉え方と取り組み方」 対象：市民一般 場所：石垣公民館
2月25日 14:20~15:20	講師：東盛 良夫（元琉球大学工学部教授） テーマ：「人生の転機について～私の履歴書をもとに語る」 対象：大浜中学校2年生（103名） 場所：大浜中学校
2月25日 20:00~21:30	講師①：高良 富夫（琉球大学工学部教授） テーマ：「話しことばの実験室」 講師②：東盛 良夫（元琉球大学工学部教授） テーマ：「人生を悔いなく生きる渡世術」 対象：市民一般 場所：大浜公民館



(2) 宮古地区

宮古地区では、宮古出身の本学の学生が小中学生や高校生と交流し、進学意識の向上や学習への動機づけをはかるプログラムを実施した。こうした学生による離島支援は当センターでは初めての試みである。この試みのきっかけとなったのは、離島には大学がなく、大学生がいないために、子どもたちを進学や学習に動機づけることが難しいという、宮古地区の社会教育関係者の方々の言葉である。こうした言葉を受け、当センターでは、学生を派遣するスキームについて検討を重ねてきた。

実施の方式としては、すでに小学生対象のボランティア活動などに実績のある学生や部活に力を借りることも考えたが、「知のふるさと納税」の枠組みにならば、今年度は全員宮古出身の学生で固めることになった。2月末の実施に対して、1月中旬に学生募集、2月上旬にオリエンテーションという厳しいスケジュールであったが、呼びかけには10名の学生が名乗りを上げてくれた。当日は、残念ながら風邪のため1名の学生が参加できなかったが、全員が準備段階から積極的にアイデアを出し合い、プログラムを充実したものにしてくれた。プログラムは、小中学校では学年単位、あるいはクラス単位での交流会を基本とし、高校では進路相談会を基本とする内容となった。詳細は以下の通りである。

短い期間で多数の学校を訪れる内容となったため、各学校とのスケジュール調整は直前までかかることになった。各学校からの要望を吸い上げ、同時にプログラム期間内にスケジュールを調整するという困難な作業については、宮古島市教育委員会生涯学習振興課の上松朋子様や前里芳人様、仲間ひとみ様、その他数多くの方々のお力添えがなければ成功しなかった。記して深く感謝申し上げます。また、非常にタイトなスケジュールにもかかわらず、明るく元気に小中学生や高校生との交流に取り組んでくれた学生達にも、改めて感謝を申し上げます。

最後に、プログラム実施から3週間ほどたった頃に、参加した学生の一人から連絡があった。話によると、訪問した中学校の生徒の一人が、高校進学を機に塾を辞めるつもりだったが、大学生の話を聞いて大学への関心が高まり、これからも塾に通うことにしたという。あくまでも一つのエピソードにすぎないが、こうした効果が広がることを期待して、今後もこの事業を継続していきたい。

【平成22年度 離島講座「知のふるさと納税」宮古編】

○参加学生

下地 憲 誠	教育学部1年
下地 直 子	教育学部1年
花 沢 千 裕	法文学部1年
前 泊 秀 徳	理学部1年
垣 花 将 司	理学部1年
亀 川 純 希	理学部1年
城 間 康	工学部2年
與那覇 慎 伍	教育学部2年
友 利 理 志	理学部2年
島 尻 恵 太	理学部3年

※風邪のため、当日不参加

○スケジュール（次頁に続く）

	8:00	12:00	18:00
2月27日(日) (初日)	学生・教職員宮古島入り		放課後子ども教室・交流会への参加 (於：中央公民館)
2月28日(月) (2日目)	平良小学校 (1年生4クラス)	平良中学校 (クラスごとに全校生徒と交流) (放課後に進路相談会)	

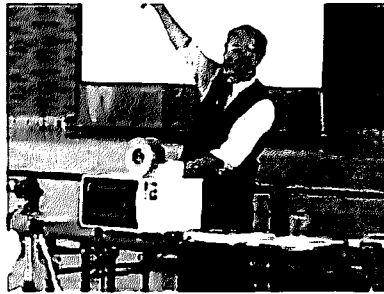
3月1日(火) (3日目)	平良南小学校 (クラスごとに交流)		
	佐良浜小学校 (学年単位で交流)		佐良浜中学校 (クラス単位で交流) (放課後に進路相談会)
3月2日(水) (4日目)	宮古高校 進路相談会	宮原小学校 (全校で交流)	企画終了
	伊良部高校 進路相談会		

離島支援プロジェクト「知のふるさと納税」

◆石垣編



【2/5】与那国での講演



【2/16】石垣中学校での講演



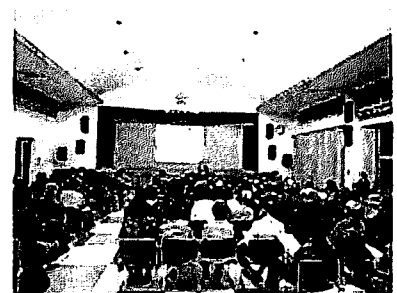
【2/16】石垣公民館での講演



【2/25】大浜中学校での講演

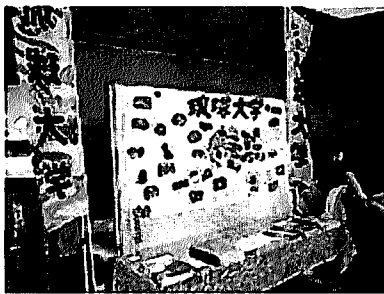


【2/25】大浜公民館での講演



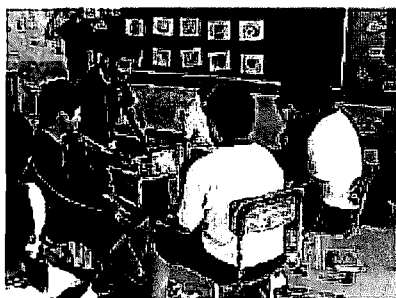
【2/25】大浜公民館での講演

◆宮古編

【2/27】放課後子ども教室
交流会琉大ブースの様子【2/27】放課後子ども教室
交流会実験教室の様子【2/27】放課後子ども教室
交流会ラクロス体験の様子【2/28】平良中学校
進路講話の様子【2/28】平良中学校
アイス作り実験の様子【2/28】平良中学校
進路相談会の様子

離島支援プロジェクト「知のふるさと納税」

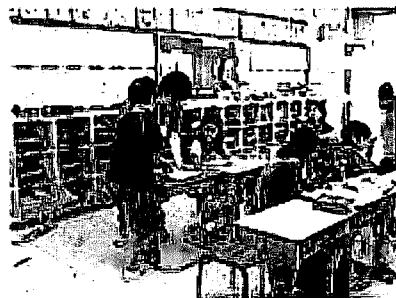
◆宮古編



【3/1】南小学校
授業の様子



【3/1】南小学校
授業の様子



【3/1】南小学校
授業の様子



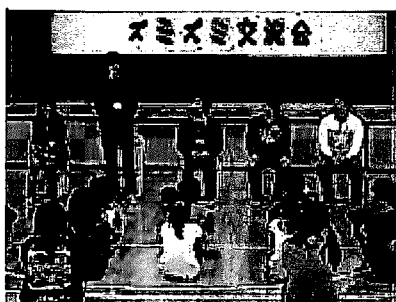
【3/2】宮古高校
進路学習会の様子



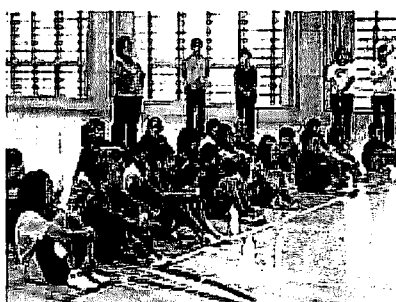
【3/2】宮古高校
進路学習会の様子



【3/2】宮古高校
進路学習会の様子



【3/2】宮原小学校
交流会の様子



【3/2】宮原小学校
交流会の様子



【3/2】宮原小学校
交流会の様子

※参加者まとめ※

【石垣編】

○与那国町	<u>68名</u>
○石垣中学校	<u>218名</u>
○石垣公民館	<u>約70名</u>
○大浜中学校	<u>103名</u>
○大浜公民館	<u>約70名</u>

【宮古編】

○放課後子ども教室交流会	<u>約150名</u>
○平良第一小学校	<u>571名</u>
○平良中学校	<u>531名</u>
○平良中学校（進路相談会）	<u>19名</u>
○南小学校	<u>140名</u>

○宮古高校	<u>562名</u>
○宮原小学校	<u>16名</u>
○佐良浜小学校	<u>159名</u>
○佐良浜中学校	<u>80名</u>
○伊良部高校	<u>106名</u>

7. 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会への参加

平成22年10月22日（金）・23日（土）の両日、第32回全国生涯学習系センター研究協議会が和歌山大学の当番によって開催された。文部科学省および全国26の国立大学法人から100名近い参加者があり、本学からは大城理事、井上センター長および玉城地域連携推進係員の3名が参加した。会議次第は以下のとおりである。

【第1日目】

- 開 会 （和歌山大学長 山本健慈 氏）
- 全 体 会：協議事項の提案（協議会の母体となる「全国国立大学生涯学習系センター研究会（準備会）の設置について）
- 行政報告：「高等教育機関が設置する生涯学習系センターの役割と機能に関する調査研究」
平山 大 氏（文部科学省生涯学習政策局生涯学習推進課 課長補佐）
- 基調講演：『生涯学習系センターの将来をどう切り開くか』
木村 純 氏（北海道大学高等教育推進機構 教授）
- 分 科 会
 - 第1分科会：「大学における社会貢献の今後の方向性～大学がバナンスと生涯学習系センターの役割」（大城理事参加）
 - 第2分科会：「自治体生涯学習・社会教育部局と生涯学習センターとの協働～『地域問題解決』の視点から」（井上センター長参加）
 - 第3分科会：「教育職員と事務職員の協働～センター系職員の仕事が『ひとつの職種』として認知されるために」（玉城係員参加）

【第2日目】

- 全 体 会 分科会報告および協議
- 生涯学習フォーラム・熟議 in 和歌山（テーマ：地域における大学の役割について）
- 閉 会 （和歌山大学副学長 堀内秀雄 氏）

第1日目の開会の後、木村氏による基調講演が行われた。木村氏は、生涯学習系センターがそれぞれの大学でどのような位置づけを得てどのような役割を担うかについて、その創設の経緯や集められた期待により異なる旨、指摘された。また、最近のセンターを巡る情勢や北海道大学での取組を紹介する中で、事務職員と教員との「教職協働」の取組の重要性を述べられた。

全体会の後には、分科会が開かれた。第1分科会では、大学内での社会貢献や生涯学習系センターの位置づけ、生涯学習の概念、大学の社会貢献を発展させるためにどうすべきか、などを中心に意見交換が行われた。また、第2分科会では、滋賀大学および和歌山大学の自治体との連携取組について事例報告があり、持続的な連携関係の構築や、地域と大学との対等な連携関係の重要性について議論された。第3分科会（参加者の9割が事務職員）では教員と事務職員との協働をテーマに金沢大学および和歌山大学での事例が報告された後、各大学の教職協働の取組や、事務職員の意識、教職協働における信頼関係の重要性などに関して情報交換がなされた。

第2日目には、「生涯学習フォーラム・熟議 in 和歌山」が開催され、参加者が少人数のグループに分かれ、「地域における大学の役割について」をテーマに大学の課題や要望、その解決策などについて活発な意見交換（熟議）を行った。参加者は、大学職員、文部科学省関係者、学生（大学生・高校生）、教員、自治体職員、市町村議会議員、一般市民などと多岐に亘り、様々な立場からの大学についての見解に触れることができた。

法人化以後、全国的に生涯学習系センターの再編・統合が進み、センターの存在意義が問われている。今、全国の様々な先進事例に触れ、参加者全員で課題や意見を共有し議論することで、大学やセンターの役割を再確認することができた有意義な2日間であった。

8. 研究紀要第5号の発刊

琉球大学生涯学習教育研究センター研究紀要『生涯学習フォーラム』第5号には、今回も県内外から多数の投稿があり、厳正な査読を経て、報告2本、研究ノート1本、論文3本を掲載することになった。また、今回は、井上センター長より当センターの今後の方向性に対する論考を頂戴したため、編集委員会での協議の結果、これを「提言」というカテゴリーで掲載することに決定した。

学校と地域社会の連携や、生涯学習による「まちづくり」などが重要な課題となるなか、今回掲載された論考はいずれもこれらの課題に深く関わっている。近年の政策動向を多面的に捉える視点を提供する論考もあり、生涯学習関係者の方々には広く読んで頂きたいと考えている。

『生涯学習フォーラム』は、これまで全国の図書館や生涯学習関係機関等に配布を行ってきた。沖縄県内の注目すべき取り組みや実践報告については一つでも多く掲載していく方針であり、県内の生涯学習関係者には積極的な投稿をお願いしたい。